

平成 30 年度 福岡市博物館協議会

I 日 時：平成 31 年 3 月 20 日（水）10:00～12:00

II 場 所：福岡市博物館 講座室 1

III 出席者：委員側）豊田会長，大江副会長，太田委員，梶山委員，熊谷委員，菊竹委員，
サーズ委員，藤島委員，森委員，山下委員（12 名）
博物館）有馬館長，嶋本副館長，田坂研究指導員，高山事業管理部長，中村運営課長，
米倉学芸課長，岩佐係長，又野学芸係長，堀本主査，松村主任学芸主事，
末吉主任学芸主事，太田主任学芸主事，日吉主査，菅波主任文化財主事（13 名）

IV 内 容：詳細は以下のとおり

1 開会

2 前回の議論の確認

3 議題

（1）平成 30 年度事業報告・平成 31 年度事業計画

- ・事務局が，別添資料「Ⅰ 平成 30 年度福岡市博物館事業報告」に基づき，説明した。
- ・委員からは特に意見はなく，評価としては「おおむね良好」とした。
- ・事務局が，別添資料「Ⅱ 平成 31 年度福岡市博物館事業計画」に基づき，説明した。
- ・委員からは特に意見はなく，妥当であり，事業の深化に努めることとなった。

（2）今後の博物館のあり方

- ・事務局が，別添資料「Ⅲ 新しい博物館を目指して」に基づき，説明。以下の質疑応答があった。

（委員）博物館の正面の階段は立派だが，年配の方や身体が弱い方にとっては怖いと聞く。配慮して頂きたい。

（事務局）30 年設備が変わっていないところもあるが，ユニバーサルデザインの考え方を導入しており，高齢者にはエレベータへの案内など分かり易く充実させていく。改修の際はそうした視点に一層配慮して取り組みたい。

（会長）現在の博物館はどういった点にユニバーサルデザイン上の課題があると考えているか？

（事務局）これまで乳幼児向け設備などを設置した。さまざまな方にやさしい博物館でありたいと思う。私の経験だが，バス停から博物館までの点字ブロックなど誘導面で不便と感じた。

（事務局）会長は博物館の弱点を指摘されたと思う。博物館ができた時は，「これで良い」と考えられていたが，時間が経つと求められることも変わっていく。本館はそうしたことに物理的に対応しにくい建物となっており，単に階段の横にエスカレータを設置するだけでは済まない。全体を通して考え方を整理していきたい。

（事務局）設計当時，2 階に展示室を全て集めたのは，湿度の問題によるもの。博物館は海岸部，埋立地に立地しているため，1 階は塩害の恐れがあり，2 階に展示室を設けた。このため，どのようにして観覧者を 2 階に上げるか検討し，エレベータやエスカレータ設置も考えた。当時は今のような人感式で静かなものがなく，エスカレータ設置はとん挫した。ガラス張りのエレベータ案もあったが，実現せず，今の状況となっている。

（会長）九州国立博物館では，エスカレータもエレベータも稼働している。当時，設置は難しかったのか？

（事務局）当時のモーターは，九州国立博物館のようにスムーズに動かない。当時は来館者を年間 20 万人と予測しており，開館中，エスカレータの連続稼働は考えていなかった。

（委員）当時は，ユニバーサルデザインへの社会的認知がなかったが，現在では社会のニーズも変わったわけだから，公的な施設としてはそれに応えるべきだ。

（事務局）そのとおりだと思う。

（委員）技術的に可能となれば，大規模改修のとき，是非，検討に値することだと思う。もう一つは集

客。経済観光文化局の中で博物館としては、賑わいを作る、収益を上げることを目指すだろう。その一方で、子どもや若いファミリー層等にアピールして、将来にわたっての来館者を育成するサービスについて、展示を含めて考えてはどうか。社会の中核を経済的に支える層は時間がなくて、興味があっても博物館を訪れない。その一方で高齢者は時間が十分で、そうした方々にアピールするサービスをすることで、集客の面でも一定の効果が期待できると思う。集客を考えると、難しいことかもしれないが、いろいろな層に働きかけるべきだ。

(事務局) 今年から高齢者へアプローチして、老人クラブ等に博物館の展示スケジュールなどを配布・紹介した。近くの公民館や校区団体から展開できればと考えており、幅広く取り組んでいきたい。

(委員) 2025年には日本がかつてない高齢化社会を迎える。私も博物館協議会に12年間関わっている。前回のリニューアルの際、委員みんなが考えたのは、金印など「物」を中心に考え、「対象者」はあまり考慮されていなかった気がする。今の博物館は若いファミリー層も多く来館している。特別展「ジブリの大博覧会」がそうした層を狙っている。その一方、常設展の来館者は下がっている。次のリニューアルまでに、常設展で大規模企画以外で何をするのか、対象者どこにおくか、見極めてないと福岡市博物館の特徴は出てこない。

高齢化が進む中、高齢者が行き易い施設にし、中身や企画を高齢者向けにする必要がある。そうすると絶対年齢層が上に伸びると思う。福岡市博物館は、アジア美術館や九州国立博物館と違いや特長が見えにくい。「金印」を所蔵しているからどう打ち出すがが重要。

「対象者」を中心に考える博物館であってもいい。今、高齢者のNPOで居場所づくりを行っているが、高齢者は外出しない。博物館の紹介や案内だけでは響かないので、中身と施設で高齢化社会に対応してほしい。

(委員) 博物館を中心としたまちづくりをしてほしい。この近くに来れば骨董屋、絵画店、修理屋など様々な店があるようなまちにしてほしい。ここは博物館がポツンとあるだけ。博物館に行くことが、まちを見て廻ることになるようにしてほしい。

(委員) 市制施行130周年の展示を楽しみにしている。というのも、福岡市博物館の使命に「郷土福岡の歴史と民俗について学習する場」とあるが、福岡市の特性を考えた場合、郷土の人は少なく、学生の流入・流出が激しくて、交流人口の数に現れる都市と思う。博物館は、初めて福岡で暮らす人が行って、福岡市のまちの素晴らしさを理解できる、そして現代史もしっかり学び、これからの生活がわかる、今の文物が展示されている場所になるといい。現在、新入生向けのオリエンテーションで「これから4年間福岡市で楽しむために、まず博物館に行こうよ」という企画を考えているけれど、はじめて来る人にとってワクワクする、色々な機能やサービスがある、「今から」を楽しめるショーケースにしてほしい。

(委員) 昨日リニューアルした美術館のカフェとレストランにいったが、業者に任せてインパクトが少なく、保守的。博物館を新しくする時、「賑わい」が一つの目標になるだろうから、カフェなどに相当に力を入れてほしい。飲食にはパワーがある。博物館にまず来てほしいなら、欧州でいえばポピュラーやバレエに行くなど社会的に交流する場、コミュニティなど新しい観点が必要。単なる施設や設備のアップトゥーデイトでなく、福岡空港のように全面的な民間運営へ切り替えでもしないと、今と大して変わらないのではないかな。

(委員) 短期的なことと博物館のあり方について、コメントしたい。

まず、漫画に『アンゴルモア 元寇合戦記』があり、対馬編が終了して博多編が始まる段階。漫画・アニメは日本文化の集約したものである。元寇という博多の郷土史を扱ったものでもあるので、コラボするものはアイディアだと思う。作家のたかぎ七彦氏は、対馬編を書いているとき、対馬市とコラボして、観光コンテンツになっていたのが、参考になると思う。

また、博物館のあり方について、「そもそも博物館とは何か」考えたが、自分は「博物館はメディアである」と思う。メディアは時代とともに機能に変化した。ただ、あり方はほとんど変わっていない。現在のように情報が爆発的に増えていくと、あらゆるものが承継される中で情報自体の価値が薄らいていく。博物館で職員がハード(資料)を情報化した途端、資料価値がなくなってしまうと考える。

では「何が価値になるのか」考えると、「博物館の理念や個性」が重要になる。「博物館という有形物やハードを使って、いかに市民がワクワクするか」について、「いかに見せるか、感じさせるか」あまり議論されていなかった。これを議論するだけで何か言葉やアイディアが出てくると思う。

(事務局) 『アンゴルモア』の作者は昨年、当館を訪れ、いろいろ話もした。今の所、コラボはないが、

そうしたことを取り入れていきたい。

今回、意見を頂いたことがミッションステートメントの中に出てくると思う。福岡市立の博物館であるので、指摘のあった点も踏まえ、「今後、博物館はどうあるべきなのか」について、もともと「博物館とは何なのか」から始めていきたい。そして 31 または 32 年度までにはミッションを作り上げたい。

(委員) この数年間の博物館の変化には驚いている。人が寄りついてくれればよいだけでなく、心が落ち着く、心地よい空間がリニューアルしてほしいし、ユニバーサルデザインでどんな方も心地よくする、「この場所に来れば楽しい」と思えるようにしてほしい。館の中だけでなく、周りの池をきれいにする、季節の花を植えるだけでもかなり違う。

そして、あまり議論にあがっていないが、「博物館って何なのか？」と問われれば、「文化財を収蔵し、展示し、研究し、一般の方々に提供するところ」である。今、急激に集客に目が奪われがちだが、その点を疎かにしてはならない。まして、PPP を導入するならば、どこを民間に任せ、どこを福岡市としてしっかり守っていくのか明確にするべき。特にリニューアルするならば不足する収蔵庫をしっかり確保するべき。「来てよかった」と思える博物館を目指すことに異論はないが、集客のことばかり考え、本来機能を疎かにしてはならない。

(委員) 賑わいに関して、東区の「なみきスクエア」の指定管理者に大手企業が受託した。運営や人集めについて、事業者自ら企画して地域とコラボし、地域にとっても助けとなった。管理者が変わり、「なみきスクエア」に人が集まるし、運営も上手いので、良い関係ができたと感じている。博物館でも良いパートナーが見つかるといいが、自分たちは今まで必ずしもそうではなかったもので、十分に留意して進めてほしい。

(事務局) 今、PPP 導入した全国の博物館・美術館の状況を調べている。上手くいっている所もあれば、上手くいっていない所もある。今は PPP 導入の検討段階。まずは来年度、長期保全計画を策定する中で修理費にいくら要するのか明らかにするとともに、「今後、博物館をどうしていくのか」ミッションステートメントをつくった上で、最終的にどういった運営方法が良いかを決めたい。指摘があった「福岡の文化を守る」が博物館の使命だと考えている。収蔵庫は厳しい状況にあるが、全て所蔵品で対応している年間 24 回もの企画展を目当てに来館する方もいるし、伝統的な博物館が全て悪いというわけではない。良かったものは残して、今、変えるべきところを取り入れることとしたい。

(事務局) 今、頂いた意見は貴重なもの。どちらがどうということではなく、根本は同じ。方式が物事を決めるのではなくて、どう運用するかで決まってくる。「指定管理者制度を導入したらこうなる」とか、「PFI だったらこうなる」とか、決まっている訳ではない。指定管理者制度を導入して上手くいった所も、日々、大変な努力をし、管理者と行政との間で押し合いへし合いをして、現在のパフォーマンスを維持している。

外部委員会を作ると、見識のある委員ばかりでなく、公認会計士や「儲からないならここをレストランにしたらい」と言われる方がずらっと並んでいる中で、博物館は説明責任を果たし、自分たちの考え方を相手に説得しなければならない。「これまで何が問題であったか」というと、そこを必死になって説明しようとする努力に欠けていた。今、予算が厳しいので、「文化財は大事なので」という理由だけでは予算措置されない。そこを説得する努力が求められる。公的資金で運営されている公立館なので、身に沁みて考えていかなければならない。

(副会長) 「道の駅」は市町村で指定管理者運営されているが、その指定管理者を選ぶ委員会が問題となる。時の首長に声がかかった人が委員となり、ある業者が指定されるが、市長が代わるとまた別の業者に変わることもある。だから、委員をどう選ぶか、どういうコンセプトにするか、ポイントを選んで、先ほど「集客」が話題になったが「良いレストランをいれること」と明記してできた場合は高い評価を与えるように、評価点をしっかりとトンデモナイことが起こりうる。博物館や美術館の場合は特殊で、運営管理には丹青社など限られた業者しか参加していないのではないかと。そうした業者にきちんと「いいレストランをいれる」とポイントを言わせないとダメだと思う。

成功事例として、「海の中道海浜公園」が PPP で事業をやるのがこの前決まった。今、どんな業務項目でやるかが議論されて、来年度から募集が始まる。仮の募集を行っており、指定管理者に応募する事業者の説明会をしているところ。企業体を含め、10 社くらいの応募がある。公園関係者、観光業、公認会計士など 5 人の委員で協議しているが、どういったポイントで指定管理を行うかが重要である。

マリニワールドは西鉄が指定管理者に入り、夜間開放してデートスポットにするなど「どうし

たら客が来てくれるか」工夫しているから上手くいっている。ただ、受託期間としては20年が最大らしい。

何がポイントして大事か、しっかり見極めることが重要。東京で問題になったのは、委員会が高く評価した業者は指定管理者とならず、第二位に決定し、政治的問題があるのではないかと新聞報道された。学識経験者が行っていたが、良い事業者がポイントも高くなる、選ぶポイントをしっかり議論することが必要だ。

市では、すでに福岡市美術館の事例があり、ここから学ぶべきことがたくさんあると思う。機会があれば、美術館での事業者選定について聞かせてほしい。

(委員) ここで問題になっているのは入場者数ばかりの話である。入館して出ていくまで、どれだけ留まったかの、滞館時間が大事ではないか。しっかり見て、しっかり楽しんでもらうことが施設の使命である。数ばかり議論されるのはおかしい。一人ひとり滞館時間を測るなど配慮してほしい。

(委員) 補足だが、滞館時間の計測は、デジタルで何とかなる世界と思う。カメラで人を認識できるらしいので、工夫してほしい。数年後にはAI的なものも登場するのではないだろうか。

(委員) ロンドンでは美術館で企業が夜パーティを開くことがある。実施する企業のイメージを上げるだけでなく、忙しいビジネスマンたちが文化に触れる機会を作ってくれた。

食事は無理でもスナック程度を提供すれば、ビジネスマンも来館するようになり、改めて博物館の良さを知ってもらえる、「良かった」となれば来館者は影響力がある方ばかり、その方々が広報マンとなる、という流れができると素晴らしい。

(委員) 初めて福岡に来られた方を何度も常設展に案内したが、福岡の都市(まち)がどのようなまちかよくわかる。へたな社会科副読本よりも子供たちにとっては常設展を定期的にみる方が役に立つと思う。先ほど中学校社会科研究会の話題があったが、中学校との連携は難しいと思う。先生方もとても忙しいと言われていたし、小中高大の先生の中で、一番大変。生活指導も指導要領にあることもやらなければならない。さらに親は面倒くさい。郊外で授業の一環で活動することは難しいのではないか。

他方、小学生は、3年生で「自分たちのまち」を学ぶ。むしろ小学校にアプローチするべきではないか。詳しい授業は先生も大変なので、私見ではあるが教科が専門的でない小学校は良いのではないか。

(事務局) 小学校は2年前にトライしてみたが、あまり話が進まなかった。

(委員) そうであっても長い目で教育委員会全体にアプローチすることが必要だと思う。中学生が来館して退屈と思うより、小学生に面白かったと感じてもらい、習慣づけできれば、「博物館いいじゃないか、次に家族で一緒に行こう」となるのではないか。小さな頃の文化体験やスポーツ体験は心に残り、大人になっても博物館に行く人になってくれるかもしれない。教育的な意義もあるし、将来的な集客の可能性にも寄与すると思う。学校は牙城であり、大変と思うが働きかけてほしい。

(事務局) 何度か教育委員会などに足を運んでいるが、今後ともアタックしてみたい。

(委員) 現状では、小学校でも英語は5・6年生で週2時間、3・4年生でも週1時間の授業となっているので先生方も大変。教育委員会の方針としては、バスを使い郊外に行く機会は年1回に制限しなさいとか、経済的に厳しい家庭もあるのでできるだけ費用をかけないなどとしている。

2020年から小学3年生の社会科で「市の移り変わり」の学習が新たに始まる。博物館に行けばそうしたコンテンツを備えたコーナーがあり、福岡タワーに上って福岡の地形を学ぶ時間もあるので、セットで福岡タワーと博物館や総合図書館に行き、一体的なフィールドワークができると良い。小学校の教員もそこまで余裕がない。博物館に行けなくとも、デジタルコンテンツが配信されとか、市はICT技術の活用を推進しているので、博物館のコンテンツが入ったタブレット端末が配布されるなど、教員が「PRにやってみようかな」と動機づけになる形となれば乗りやすい。福岡市はICT教育が遅れていること、交通の便が複雑で小学生だけでは危険であることから、ICTを使った学芸員との対話ができて学習できる良い。ICTを活用した学習教材を開発してほしい。

(事務局) 今、学芸課担当職員に対していくつかそういう話があっている。まずは博物館から材料などを提供できるように考えたい。

(委員) 一点目として、ICT推進の立場からスマートミュージアムが検討されると思うが、技術がどんどん進んでくるので当初からガチッと組み込まないでいただきたい。今、ARとかVRとか新しい技術はどんどん変わってくるので、その都度、最先端のもの、実験的なものに柔軟に対応

しつつ、外のリソースを活用できる短期的なスキームで作ってはどうか。良い更新の時期だと思う。

二点目は今までの博物館に拘らずに、宿泊できる機能があるといいのではないか。体育会系の学生には合宿する施設があるが、文化部の学生にはないことから、既に「となりの本屋さん」があるように、宿泊可能な施設にするとか、社会教育や修学旅行の面からも学校が来てくれるとか、これまでにない博物館のあり方を目指してはどうか。管理に関してはホテルに指定管理者として絡んでもらうことも一案。

これまでの博物館ではなく、別の機能と掛け合わせたものを検討してはどうか

(事務局) デジタルコンテンツに関しては、開館当初、最新のレーザーディスクを導入したがすぐに陳腐化した苦い経験がある。更新できるものを取り入れていきたい。決めつけではなく、まずはいろいろタマを出して、検討していく。

(委員) 博物館資料は成人の身長に合わせて展示している。簡単ではないが、小さい子は展示が見えないのでキッズルートを作してほしい。解説も子供の成長に合わせたものにしてほしい。全て一緒には考えられない。

(委員) 簡単にできることとして、市民が一度入場すると一年間無料になる制度は面白いと思う。理由は、熊本城を観覧する毎に何回も支払いたくないが、自分が無料であれば次回、誰かを連れてこようと思うらしい。写真つきパスは簡単にできるから、こうしたことから始めてはどうか。

(会長) 博物館でこれまでこうしたことをやったことはあるか？

(事務局) ない。

(委員) いや、以前は年間パスがあった。

(事務局) 文化芸術振興財団の「わの会」ではあった。

(事務局) 直営ではやっていない。

(会長) ファンクラブのように、その人たちは安く入場できるなど特典があった。

(委員) 学生や留学生を連れてくるとき、役に立つと思う。

(3) 福岡市博物館協議会の運営について

- ・事務局が、資料で説明。任期満了に伴う改選を機に、①活発な議論を行うとともに、男女共同参画の観点から女性の参画率を高めるため、現在 18 名の委員数を今回議論している十数名規模に縮小することを提案。

(会長) 次の会議はいつ頃か？

(事務局) 8 月もしくは 9 月を考えており、年 2 回程度開催して、議論を深めていただきたい。

(会長) 委員各位、異論はないか？

(全員) 異論なし

4 閉会